

## 香川県教育委員会 2月定例会会議録

1. 開催日時 令和8年2月4日(水)  
開 会 午前9時00分  
閉 会 午前10時55分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教育長	淀谷圭三郎
委員	藤澤茜
委員	木下敬三
委員	蓮井明博
委員	鳥取美穂
委員	持田めぐみ

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	塩田広宣
教育次長(兼)政策調整監	和田友樹
教育次長	吉田智
総務課長	景政孝輔
義務教育課長	西原明
高校教育課長	橋本和之
特別支援教育課長	笠井幸博
保健体育課長	高田孝行
生涯学習・文化財課長	持永新
人権・同和教育課長	山田憲治
義務教育課教育情報化推進室長	西山英希
教育センター所長	福田宏志
政策主幹(兼)総務課副課長	山下利美
総務課長補佐	三好智久
義務教育課長補佐(兼)主任管理主事	東条直樹
義務教育課長補佐(兼)主任指導主事	久利知光
高校教育課長補佐	西山聡
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	佐伯卓哉
特別支援教育課長補佐	増田大輔
保健体育課長補佐	山元祐二
保健体育課長補佐(兼)主任体育主事	荒井憲司
健康福利課長補佐	新名智子

保健体育課県立アリーナ管理運営室長補佐	矢野賢吾
教育センター教育研究課長	藤原由宜
総務課副主幹	尾藤真由美
義務教育課主任指導主事	尼子智悠
義務教育課主任指導主事	植松崇人
高校教育課主任指導主事	井上真弓
高校教育課主任指導主事	関正英
特別支援教育課主任指導主事	岡孝弘
総務課主任	藤田楓佳
義務教育課主任	神原徹也
特別支援教育課主任	草薙拓郎

傍聴人 なし

## 5. 会議録の承認

1月15日に開催した定例会の会議録署名委員の鳥取委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

## 6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第2号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に、議案第3号は、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」に、議案第4号は、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」及び「県の機関が行う事務に関する情報であって、公にすることにより、人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれがあるもの」にそれぞれ該当するため、非公開としたい旨を発議。

## 7. 議案

### ○議案第1号 高速艇に係る通勤手当に関する規則の一部改正について

総務課長から、令和8年2月1日から、宇野港－宮浦港間で運行されている高速艇運賃料金が変更になることに伴い、高速艇を利用した場合の通勤手当額に係る規定の改正を行うことについて諮る旨、説明。

【質疑】 なし

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 令和8年2月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案に対する意見について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第3号 児童及び生徒に対する表彰について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第4号 教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和7年度香川県学習状況調査報告書について

教育センター所長から、令和7年度香川県学習状況調査に係る調査結果の概要等について説明。

【質疑・意見交換】

＜木下委員＞報告書の「あのときの5年生は今？」という項目について、小学校5年生がそのまま中学校2年生になって、全部同じサンプルで結果を得られているのか。当然、登校拒否などで欠けている人がいると思うが、正確な人数はわかるか。

＜教育センター所長＞小学校から中学校に上がって不登校の人数が大きく増加しており、中学校で受験できていない生徒も一定数いる。

＜木下委員＞例えば、小学校5年生の時に100人いて、中学校2年生になって同じ質問をしたときに10人減って90人になったとする。仮定の話であるが、試験でいうと、受けたくなかった10人を除いた残りの90人だけを見ているから、客観的な比較が難しい。つまりデータだけを見ると、一見、自己肯定感が増加しているように見えるが、実際は自己肯定感を失った生徒が、統計から抜け落ちている可能性も否定できない。よって正確性を期すためには、途中で抜け落ちたデータも考慮する必要があると考える。

＜義務教育課長＞小学校5年生のときに受けていたが中学校2年生になって受けていない人数について、私立中学校に進学した人数分は減っている。また、今回の試

験では、小学校5年生は約400人、中学校2年生は約800人が受けていない状況である。11月に試験を行った時点で不登校になっている小学生のうち約6割の児童が、中学生のうち87%の生徒がこの試験を受けていないことから、母集団に変化があるかと思う。来年度からは小学校3年生から中学校3年生まで受験するので、意識については経年で追いかけることができる。また、教科については、来年度から国の調査になる。

<木下委員>不登校になって、現場復帰した子供はどのぐらいの割合か。

<義務教育課長>30日以上欠席した子供が「不登校」ということになる。現在、出席日数が年間10日未満の子供が約1割いて、その子供たちは翌年になっても引き続き不登校の状態にあるという割合が高くなっている。一方で、今、各学校に別室のようなところ(KSR)を設け、受け入れ体制を進めており、欠席日数が30日を超え50日未満となる、週に1日程度の欠席が1年間続いた状態の子供については、欠席が減ってきていたり、「不登校」と定義される欠席日数30日より、欠席日数が少なくなった子供たちが増えてきている状況である。

<木下委員>不登校にしても、軽度から重度まで程度がいろいろあるが、一度不登校になってしまうとやっぱり現状復帰は困難だろう。

<鳥取委員>主体性がとても大事にされており、それに関係している項目が「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができますか」や「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか」の調査だと思う。自分で考え、自分から取り組む、諦めずに取り組むということが主体性ということだと思うが、小学校も中学校も、できる人とできない人の差が激しくなっており二極化が進んでいる。特に中学校の英語は、学び始めであるにもかかわらず差が大きい。「勉強は好きですか」という質問の回答についても、英語は差が大きくなっている。主体性はとても大事ではあるが、主体的でなくなったときに取り残されていくような二極化が起きていないか、非常に心配している。先日、見学した小学校でも熱心に授業改善をしていく一方で、二極化を心配しているという意見を聞いた。また、関連して「学校の授業以に、普段、1日あたりどれぐらいの時間、勉強をしますか」との問いであるが、家で勉強する子供がどんどん減っている。主体性があれば勉強するはずであるが、そのような状況は現場ではどういう形で出てきているのか。

<義務教育課長>ご指摘の点はまさに課題であると思っている。国も「主体的・対話的で深い学び」ということや、それぞれの子供の個々の様子を見てというところで「個別最適な学び」と「協働的な学び」が呼びかけられていて、多くの学校が取り組んでいる。我々も香川の教育づくり発表会であったり、それぞれのモデル校において研究を深め、横展開を考えているところであるが、なかなか成果が出ていないため、引き続き取り組んで参りたい。英語が特にそうであるという課題意識も持っている。今、モデル校で年に2、3回、外国の同級生とオンラインで繋がって会話

をしているが、その子たちと楽しい話をするためにA Iを相手にドリルを積むという学習経験をさせている学校の子供たちの様子を見ると、能力の高い者にも、あまり英語が得意ではなかった者にも、これまで行ってきた英語の授業とは違った意欲と学習姿勢が見られることから、そのような視点を大事にしながら今後も取り組んでいきたい。

＜藤澤委員＞「分からないところは先生や友達に質問して解決していますか」という質問について、うちの子はチャッピーに相談すると回答すると思う。そう考えたときに、もしかしたら質問事項と子供の状況とが合致してないところがあるのかなと感じた。また、不登校の子供の復帰について、何をもちて復帰とするのかということはずごく難しいと思っており、そこに学力を踏まえたときに、例えば卒業する学年のところまで達しているのかという部分はすごく課題なんだろうと思う。子供たちの様子を見ていて、クラスで教え合うことをすごく大事にしているところは良さでもあるが、子供たちからすると負担となっていたりもするので、先生が捉えていることと子供たちがどう捉えているのかということを精査していただけるとありがたい。学力状況調査について、合理的配慮の部分がどこまであり、それによって成績が変わる子供たちの部分がどう入っているのかということもいろいろあると思う。また、家庭学習について、習い事をしている子と全くしていない子も二極化している。家で学び直しができているかを背景も含めて見ることによって、自分1人で学び直して、塾で学び直しができているからそれを良しとするのか、全くそれみなしで自分だけで勉強しないといけない子供がどれぐらいいて、どれだけフォローが必要かということについても検証していただけるとありがたい。また、この報告書がなくなるということだが、冊子がなくなり、代替のものができるのか。

＜教育センター所長＞調査報告書に関しては、スケジュールや、形式が紙の冊子か電子データなのかなどについて現在検討を進めている。学校に対して、使いやすくてわかりやすい形を出していけないかという視点で作成している。質問の内容については、過去から経年比較できるように固定してきたものもあるが、今の時代にあわせて子供たちの状況を正確に確認するためにどのような質問を入れるか、現在ゼロベースで検討しているところである。

＜義務教育課長＞令和8年度の全国学力・学習状況調査については、英語の試験をタブレットで受験できるようになる。国においては令和9年度からは他教科の試験もタブレットで受験できるようになり、教室にいないと受けられないという環境を変えていくことができるので、その点を踏まえながら、どう受験させるかを考えてまいりたいと思う。いろいろな分析の視点をいただいたことを踏まえ、全国学力・学習状況調査一本に絞り、結果をしっかりと分析して、どのような対策をとっていくかというスタンスで取り組んでいきたい。子供が思っている感覚と教員が思っている感覚について、例えば今、子供たちがやりたい学びを選択させる、自分で調整して決定しながら学んでいくことが大切と言われている。先生はそのような場を設けて

いると考えて授業しているのだが、子供たちはそのような場を与えてくれていないと感じているということが今回の調査で明確になっており、こういった視点も大事にしたいと思う。また、家庭でどのような学習に取り組ませるかということについて、どんな勉強をしたらいいか、計画が立てられないということを嘆いている子供たちもすでについて、これまで、毎日1ページノートに勉強してくるんですよといった課題の与え方をしてきた経緯もあるが、個別にふさわしい家庭学習も考えてみたい。

＜教育長＞全国学力・学習状況調査を小学校6年生と中学校3年生に実施するのはなぜか。授業改善のためのテストであれば、例えば、中学校1年生のある生徒の学習状況や質問等で調査して問題が見つかった場合、その生徒が中学校2年生になったときの授業を改善しなければ、人が入れ替わったのでは意味がない。例えば在校生1人の学校に入学したA君にテストをして、その結果を次の年に入学したB君の授業に反映しても仕方がないとずっと思っている。なぜ、国が小学校6年生と中学校3年生なのか。授業改善が目的で、その全体としての学力、学習環境、学習習慣などを上げていくということが目的なのであれば、毎年人が入れ替わって当該生徒に向き合わないというのでは意味がないと思うので、PDCAサイクルを作っていくのも当たり前のことであるが、要は、何のためにやっているのかということをもう1度、質問肢の改善も含めてよく考えないと、年中行事の1つになってしまう。しかも、それに先生方の労力が取られたら、何のために忙しいのかよくわからないということになるので、しっかりと考えてほしい。

#### ○その他事項2 令和8年度香川県立高松北中学校入学者選抜の実施状況について

高校教育課長から、令和8年度香川県立高松北中学校入学者選抜の実施状況について説明。

#### 【質疑・意見交換】

＜藤澤委員＞高松市がもう少し早く部活動の方針を出していれば受検を考えた人が増えたかもしれない。今の小学校6年生が、中学校3年生まで部活動ができず中学2年生の夏で終わるという話が出て、部活動をどうするのか、このまま地元でいいのか、逆にどこでも構わない状況になるのであれば受検してもいいのではないかとということで保護者たちが結構ざわついたが、決めるまでの期間が短かった。部活動が結構受検に影響すると感じた。

＜教育長＞高松北中学校の部活動の方針は対外的には出ているのか。

＜保健体育課長＞出していない。高松北中学校も県がクラブ化を進めようとしており、23日にサッカーの体験会をする予定である。

＜藤澤委員＞部活動で左右される人たちがすごく多い。

＜教育長＞高松市の場合は、どこの中学校に行っても地域クラブに入ることになる

- 思う。部活動がないということはありません。
- <保健体育課長>基本的には令和13年度までに土日を完全にクラブで、平日は学校の部活動が残ると思う。
- <教育長>高松市のことか。
- <保健体育課長>高松市は全部である。
- <藤澤委員>見通しがあるのかどうか、どこまで具体的に発信してくれるのかということ、子供たちにとってはすごく大きい。
- <持田委員>入学予定者数について、去年は定員内で1人不合格者が出たが、今年は全員合格ということか。
- <高校教育課長>令和7年度選抜は104名が受検して1人が不合格であった。
- <持田委員>受検者数というのは、志願者数ではなく当日受検した人数ということか。去年は、志願者数が定員内であったが、絶対的な基準で1人が不合格であり、今年は、定員内かどうかは特に関係なく、全員が絶対的にクリアしているという理解でよいか。
- <高校教育課長>そのとおりである。
- <持田委員>今後、受検者数がかなり少なくなったとしても、基準を満たしていない場合は合格させないということになるのか。
- <高校教育課長>不合格になる可能性はある。
- <教育長>令和5、6年度選抜はどうだったのか。過去、定員内で不合格者が出た年はあるのか。
- <高校教育課長>昨年度に1人だけで、それ以前はいない。
- <教育長>とにかく受け入れられないということか。
- <高校教育課長>そうである。
- <藤澤委員>児童生徒数が減っていく中、高松北中学校の定員は105人を維持していくのか。
- <教育長>中学校は現在35人学級としている。3クラスとなると定員は105人になる。1クラス30人として90人にするというようなクラスの人数は、次の香川型指導体制をどうするかといった議論の中で考えないとならない。高松北中学校だけそうするのは厳しい。

○その他事項3 令和8年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領について

義務教育課長から、令和8年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領について説明。

【質疑・意見交換】 なし

○その他事項4 第78回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の結果について

保健体育課長から、第78回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の結果について説明。

【質疑・意見交換】 なし